資料9

寛保二年（1742）の洪水について

平成23年4月1日

青蓮寺（群馬県太田市）の位置図

寛保二年（1742）の大洪水の記録

【参考資料】
250におよぶ市区町村等の史誌及び歴史関連書籍150冊以上の資料を参考に作成した。

御関所御かこい林
五百壱本当戌八月　満水ニテ流失申候
（「嬬恋村誌」）

「堀之内小川夥敷洪水にて・・・内御門板橋御高札等流失（「群馬県吾妻郡誌追録」）

2　寛保の洪水
「吾妻川の洪水で杢の関所では刎橋の橋詰が破損し、通路と柵矢来が流失して、三国往還は通行止めとなった。」
（「渋川市誌」）

「湯小屋は、前々より拾五軒有之候処、去々年戌年大水の時押流、屋数五軒残候内、・・・」
（「嬬恋村誌」）

寛保二年の大洪水
「・・・榛名山麓から流れ出した水が利根川の奔流に乗り、その沿岸を襲ったもので、・・・」
（「玉村町誌」）

【信濃川・千曲川】

「車坂峠から流れてくる中沢川と松井川が一つの土石流となって押し出し、小諸城下を直撃（中略）町は壊滅的な被害を受けた」

（「戌の満水」を歩く　より）

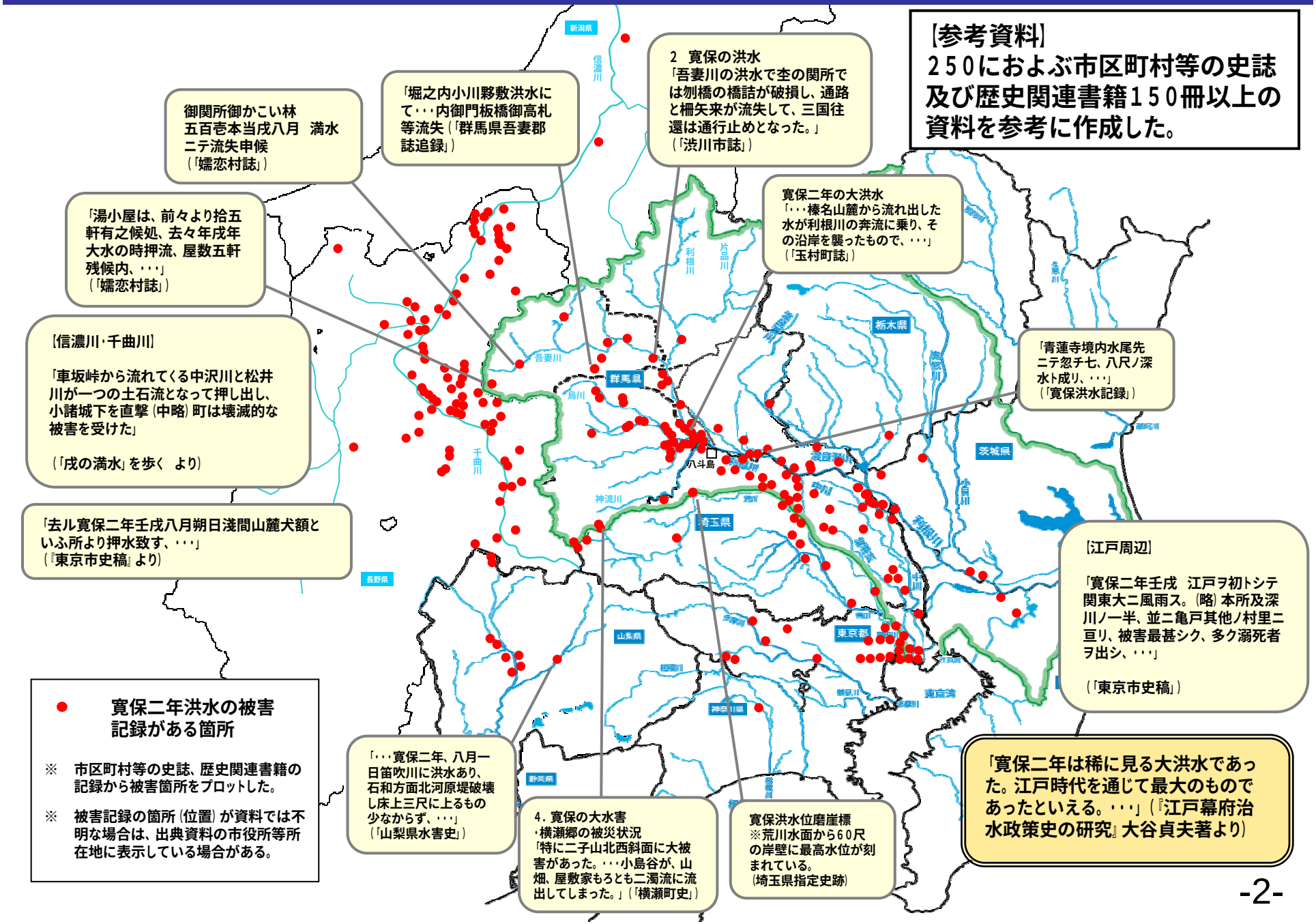
「青蓮寺境内水尾先ニテ忽チ七、八尺ノ深水ト成リ、・・・」
（「寛保洪水記録」）

「去ル寛保二年壬戌八月朔日淺間山麓犬額といふ所より押水致す、・・・」
（『東京市史稿』より）

【江戸周辺】

「寛保二年壬戌　江戸ヲ初トシテ関東大ニ風雨ス。（略）本所及深川ノ一半、並ニ亀戸其他ノ村里ニ亘リ、被害最甚シク、多ク溺死者ヲ出シ、・・・」

（「東京市史稿」）



● 寛保二年洪水の被害記録がある箇所

※　市区町村等の史誌、歴史関連書籍の記録から被害箇所をプロットした。

※　被害記録の箇所（位置）が資料では不明な場合は、出典資料の市役所等所在地に表示している場合がある。

「・・・寛保二年、八月一日笛吹川に洪水あり、石和方面北河原堤破壊し床上三尺に上るもの少なからず、・・・」
（「山梨県水害史」）

4．寛保の大水害
・横瀬郷の被災状況
「特に二子山北西斜面に大被害があった。・・・小島谷が、山畑、屋敷家もろとも二濁流に流出してしまった。」（「横瀬町史」）

寛保洪水位磨崖標
※荒川水面から60尺の岸壁に最高水位が刻まれている。
（埼玉県指定史跡）

「寛保二年は稀に見る大洪水であった。江戸時代を通じて最大のものであったといえる。・・・」（『江戸幕府治水政策史の研究』大谷貞夫著より）